

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

2026年3月26日

三田市議会議長 肥後 淳三 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会派名	市民とともに	代表者	
		議員名	橋本 維文
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先	① 石川県リハビリテーションセンター 石川県金沢市赤土町ニ 13-1 ② 富山県朝日町立あさひ総合病院 富山県下新川郡朝日町泊 477 ③ 富山市役所 富山県富山市新桜町 7-38 ④ 金沢市役所 石川県金沢市広坂 1丁目 1-1		
調査事項 (調査目的)	① 病院の指定管理の取組について ② 看護師の働く環境整備について ③ 公共交通活性化について ④ 災害時の2次避難所について		
日時	2026年1月20日(火曜日)～2026年1月22日(木曜日)		
支払金内訳	科目	支出額	摘要
	宿泊料	27,000	13,500円×2泊
	日当	9,000	3,000円×3日
	鉄道賃 (モレール)	36,100	JR 三田⇄金沢(運賃)(1/20,22)5,500×2= <u>11,000円</u> JR 大阪→JR 金沢(指定席)(1/20)= <u>4,370円</u> JR 金沢⇄JR 富山(運賃・指定席)(1/21,22) 3,190×2= <u>6,380円</u> 富山⇄泊(富山)(1/21) 1,020×2= <u>2,040円</u> ※1 JR 金沢→JR 東京(指定席) <u>6,700円</u> ※1 JR 東京→JR 新大阪(指定席) <u>5,610円</u>
	バス賃	1,240	泊駅前⇄あさひ総合病院前 <u>400円</u> 富山市内 210*3= <u>630円</u> (富山駅前→総曲輪、 総曲輪→富山市役所前、富山市役所前→富山駅前) JR 金沢⇄広坂・21世紀美術館 <u>210円</u>
	タクシー	1,942	※2JR 金沢⇄済生会金沢病院 (往路 2,800+復路 3,100)/4人= <u>1,475円</u> ※3 金沢市役所→JR 金沢 1,400円/3人= <u>467円</u>
	その他	13,089	手土産 3,089円×4か所/4人= <u>3,089円</u> 「あさひ総合病院」視察費 1人 <u>10,000円</u>
	合計	88,371	
備考	※1 1/22大雪により北陸線(近江塩津～敦賀間)終日運転休止に伴い、三田に帰着する他経路を利用する必要があったため ※2 1/20石川県リハビリテーションセンター⇄金沢駅間は、他に利用できる公共交通機関の運行本数が少ないためタクシーを利用。 ※3 1/22大雪により他経路を利用するにあたり、電車の発車時刻に間に合う必要があり止む無くタクシーを利用。		

※100km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2026年3月26日

三田市議会議長 肥後 淳三 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者 議員名	橋本 維文
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	① 石川県リハビリテーションセンター 石川県金沢市赤土町ニ 13-1 病院の指定管理の取組について ② 富山県朝日町「あさひ総合病院」 富山県下新川郡朝日町泊 477 看護師の働く環境整備について ③ 富山県富山市役所 富山県富山市新桜町 7-38 公共交通活性化について ④ 金沢市役所 石川県金沢市広坂 1丁目 1-1 災害時の2次避難所について		
日 時	2026年1月20日(火曜日)～ 2026年1月22日(木曜日)		
視察先対応者	① 石川県リハビリテーションセンター 所長事務代理 岸谷 都様、次長 船田 満生様 石川県健康福祉部校正政策課 今井 雄一様、 厚生政策課管理・援護グループ専門員 番匠 佳奈様 ② あさひ総合病院 事務部長 野口 正人様、 看護部長 山崎 美保様、朝日町長 笹原 靖直様、 町議会議長 水野 仁士様、議会事務局主幹 野崎 幸恵様 ③ 富山市 活力都市創造部参事 野村 知範様 ④ 金沢市 危機管理課担当課長 三柳 渉様 議事調査課課長 安藤 哲也様		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可 ・ 視察資料 別添 ・ 調査結果及び所見は、 別紙1：石川県(県立リハビリテーションセンター) 別紙2：朝日町(あさひ総合病院) 別紙3：富山市 別紙4：金沢市 を添付しています。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

視察先①：石川県リハビリテーションセンター

日 時：2026/1/20(火)14時～16時

目 的：病院の指定管理の取組について

◆病院の沿革

1936年 金沢市において済生会金沢診療所として開設
その後、済生会病院となり、公的病院に指定
1994年医療の高度化とシステム化を推進し、地域医療
と福祉の向上を目指して現在地に移転新築、リハビリ
テーション病棟開設

◆病院の概要

○許可病床数 260床

○一般急性期病院

- ・急性期病棟 2病棟（92床）
- ・地域包括ケア病棟 1病棟（47床）
- ・地域包括医療冒頭1病棟（45床）
- ・回復期リハビリ病棟 1病棟（45床）
- ・緩和ケア病棟 1病棟（28床）

○診療科目 17科目

◆指定管理に関して

- ・1994年に他の県有施設と同様に指定管理者制度を導入
- ・県リハビリテーションセンターの医療部門については、済生会と連携して運営することを前提に整備（済生会金沢病院に併設）されていて、1994年開設当初から、
リハビリテーションに関する教育研修、地域活動支援 → 県直営
リハビリテーションセンターの医療部門 → 済生会へ委託
- ・指定管理する際の仕様書の内容
リハビリテーション医療の提供に関する業務 清掃業務 警備業務 園地管理業務
機械設備等保守管理業務 昇降機・回転ドア保守業務 維持会計管理業務
- ・現在は、リハビリテーションセンター所長（県職員：医師）が、済生会の業務（診察等）に従事（職専免）し、済生会業務の勤務割合に応じて、済生会が給与を負担
- ・県からの派遣は、医師1人（1994年当初は計5人）
- ・財政面において、指定管理施設の収支に関わらず、
県は済生会に、県管理面積分に応じた商社管理委託料を支払い、
済生会は県に、指定管理面積分に応じた徴収金（行政財産使用料に基づく）を支払う



【視察を通じて】

三田市民病院が4月から指定管理に移行することを見据えて、現状と課題を把握するために視察を行いました。

金沢リハビリテーションセンターにおいては、施設開設当初から指定管理していたこともあり、大きな課題は見受けられませんでした。

リハビリテーション関連の現場及び経営面の視察は、想定していませんでしたが、市民病院跡地利用等、今後活用できる内容で有意義でした。



視察先②：富山県朝日町立あさひ総合病院

日 時：2026/1/21(水)14時～16時

目 的：看護師の働く環境整備について

◆朝日町の概要

人口：10,056人(2026.1.1現在)

面積：227.41km²

財政規模：一般会計約90億円、病院企業会計約40億円(2025年度)

成り立ち：1954年に当時の下新川郡の1町6村が合併し、町名は名峰「朝日岳」にちなんで命名。

特徴：北アルプスに囲まれ、ヒスイの採れる海岸を持つ、山から海までダイナミックな高低差が特徴で、自然豊かな地域。古くは宿場町として栄え、古跡も点在する歴史ある町。

◆あさひ総合病院の沿革

1945年 日本医療団泊地方病院として発足

1959年 朝日町立泊病院

1992年 朝日町立あさひ総合病院

2013年～病院経営改善・病棟再編等検討委員会設置

2019年 改修工事完了、新体制でスタート



◆あさひ総合病院の概要

- ・許可病床数 109床 ・診療科 16 診療科
- ・1日平均外来者数 422.5人 ・1日平均入院者数 94.1人
- ・病床利用率 86.3% ・平均在院日数 13日
- ・職員計 159人(医師 13人、看護師 82人、コメディカル 38人、他事務職等 26人)

◆病院再編等に関する方向性(病院再編等検討委員会)

- ・病棟の再編については、朝日町の今後を見据えて「高齢者医療の先進モデル」となる病院
- ・今後の看護師数を予測した場合、3病棟の維持は困難であり、2病棟に集約した病棟経営
- ・3階を、医療職員確保のため会議室や研修室、図書室、職員休憩室などに改修

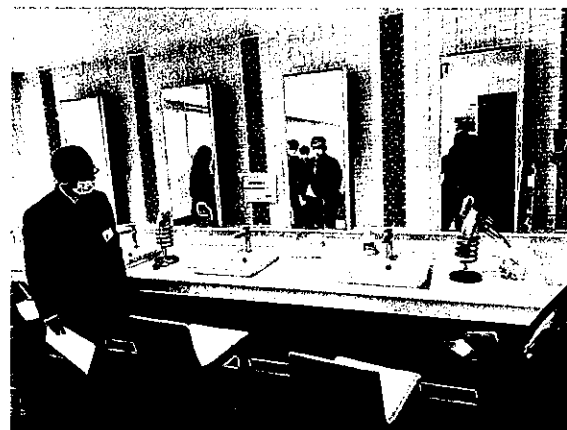
◆医療職(医師・看護師等)確保に向けた主な取り組み

- ・初任給調整手当の創設(医師・看護師・薬剤師)(2014)・病児病後児保育所の開設(2015)
- ・民間アパートを借上げ官舎(2016)・院内保育所の開設(2016)・看護学生修学資金貸与制度の拡充(2017)
- ・夜勤手当の引き上げ(2017)・医学生修学資金貸与制度の創設(2017)・福利厚生施設を拡充(2019)
- ・大学病院との寄附講座開設(2019)・病院事業会計資本金の額の減少(2021)
- ・薬学生修学資金貸与制度の創設(2021) 他

【視察を通じて】

「首長の思いが施策に反映する」というある意味当然のことを改めて強く感じました。施設内見学も含め最初から最後まで視察に帯同していただいた町長の「地域医療を守るために、人材確保のために出来ることはすべてやり切る」という強い思いを受け止めました。

また、院内で出会った全ての職員の明るい表情からは、充実した福利厚生の効果を実感しました。



視察先③：富山市役所

日 時：2026/1/21(水)9時半～11時半

目 的：公共交通活性化について

◆富山市の概要

人口：413,938人（2020国勢調査）

面積：1241.70km²

財政規模（2024年度）：一般会計約1,758億円

特徴：海拔0m(富山湾)から2,986m(水晶岳)までの多様な地形

◆富山市の公共交通活性化に関する取り組み

～公共交通と共に深化する富山市のコンパクトシティ～

○富山市のこれからのまちづくりの課題

- ・人口減少と超高齢化社会
- ・過度な自動車依存による公共交通の衰退
- ・中心市街地の魅力喪失
- ・割高な都市管理の行政コスト
- ・自動車の普及と市街地の低密度化 他

○富山市のまちづくりの基本方針

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の年の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

- ・公共交通の活性化
- ・公共交通沿線地区への居住推進
- ・中心市街地の活性化

○公共交通の維持・運行・支援等に関する予算額(2025)

- ・一般会計当初予算額のうち政策的経費は約52%
- ・一般会計の役0.5%、義務的経費以外の経費の約1.0%

○公共交通の活性化

過度に車に依存したライフスタイルを見直し、歩いて暮らせるまちを実現

- ・利用者の減少が続いていたJR線を公設民営の考え方を導入し、日本初の本格的LRTに再生
- ・市内電車環状線化事業
- ・路面電車南北接続事業

○直接的効果、波及効果

- ・利用者増（14%、定期利用者26%）
- ・市民のライフスタイルの変化

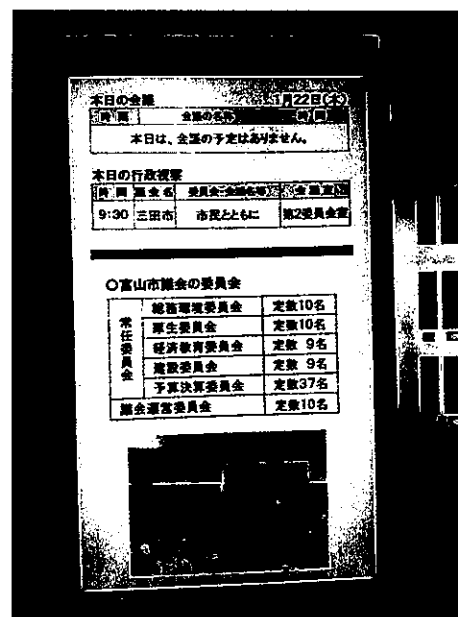
【視察を通じて】

「コンパクトシティ」の実現には、多くの高いハードルが存在しますが、富山市の場合、

- ・規制強化ではなく、誘導的手法を基本
- ・市民が居住地をまちなかか郊外かを選択可能

とすることに加えて公共交通の活性化により推進されたのだと思います。また、市の都心部だけではなく、地域拠点を整備することにより全市的にコンパクトなまちづくりとなっています。

まちづくりはより適した手法を組み合わせる等、自治体毎に千差万別ですが、まちづくりの進め方について大変参考になりました。



視察先④：金沢市役所

日 時：2026/1/22(木)14時～16時

目 的：災害時の2次避難所について



◆金沢市の概要

人口：約45万人(2026.1.1)

面積：468.81 km²

◆能登半島地震における金沢市の対応状況等

○避難状況 避難所数：124か所、避難者数：10,259人、避難指示：3地区106世帯

○被災地物資支援 受入期間：1.6～3.24、受入件数：延べ3,973件、搬送先：7市町・被災者受入施設

○能登被災者受入支援 受入開始：1/10、避難者数：314人、受入施設：6か所、
「被災者生活支援総合窓口」の開設、2次避難所避難者への支援

○職員派遣

消防応援隊 期間：1/1～5/2、派遣先：輪島市他3市、人数：延べ182隊563人

水道復旧 期間：1/16～3/15、派遣先：能登町他1町、人数：延べ103人

行政窓口支援 期間：4/28～7/3/31、派遣先：輪島市他1市2町、人数：延べ163人

家屋煮貝認定調査・医療支援他各種業務 人数：延べ309人

○応援職員受入 延べ473人(2023年度)、延べ111人(2024年度)、延べ10人(2025年度)

○能登半島地震関連事業 能登応援・震災復興キャンペーン事業他

○能登半島地震関連予算 被災者生活家電購入助成費、能登避難者食事支援費

○市内の被災地復旧

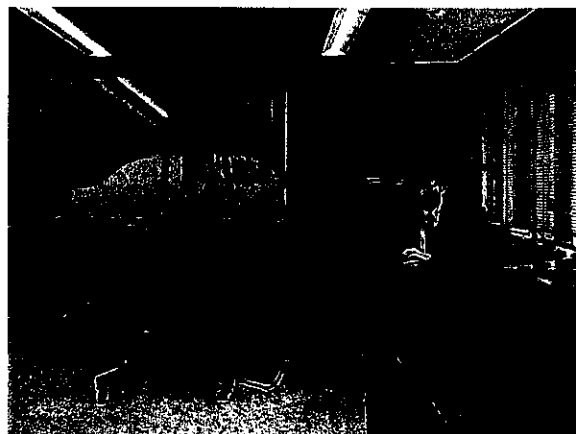
◆金沢市地域防災計画の改定

○第1次

- ・能登半島地震を教訓とした避難所運営の改善
- ・大規模災害を見据えた対応体制の強化
- ・市民への情報発信力強化、防災啓発の充実

○第2次(策定中)

- ・避難所のあり方や備蓄計画等見直しの検討
- ・新たに設置された被害想定項目への対応策の検討
- ・早期復旧・復興に向けた受援体制強化の検討
- ・デジタル技術の活用及び適正な災害広報
- ・災害シナリオに沿った、主に「いのちを守る」減殺・予防策の検討



【視察を通じて】

2024年3月に七尾市にて、ボランティアとして行政支援で現地に入っていた際、多くの金沢市の職員が応援にきていたことを思い出すとともに、市街地のそこかしこに残っている被害の爪痕が思い出されました。

説明いただいた職員の方は、長年危機管理・防災に携わってこられたとのこと、また、直近で能登半島地震を経験したことを踏まえても、防災計画の策定に際しては、大変頭を悩ませているとのことでした。理由は、検討すればするほど、多くの可能性を想定し、その一つ一つに対応策を講じるとなると終わりが無い、とのことでした。

もちろん計画は重要ですが、その計画に基づいて訓練をすることがより重要だと再認識しました。訓練等実践を通じてブラッシュアップを重ねることが、計画が洗練されより実効的な内容になるとともに、訓練時に実践に役立つ経験を蓄積しているからです。